令和2年度　環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング　発表資料

活動団体名：長沼町
活動地域　：北海道夕張郡長沼町

活動におけるテーマ・キャッチコピー
　タンチョウも住めるまちづくり

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

令和2年3月に**廃校**となった**小学校跡地を活用**した、遊水地のある舞鶴地区の拠点整備、環境ローカルビジネス構想の構築

田園と自然の共生拠点を核とした地域の賑わい・域内滞留と流域連携

札幌や空港近郊の好立地を生かした持続可能なツーリズム実現

令和３年度からの総合振興計画への織り込みによる、横断的で持続可能な取り組みの支援

地域ブランド力の向上による関係人口の増加・移住の促進

この地域（空知管内）では100年以上ぶり！５月にタンチョウ誕生を確認した長沼町 **舞鶴遊水地**

舞鶴地区と、**市街地、温泉、集客力のある道の駅、農家・ファームレストラン等**の町内連携

基幹産業である**農業**の振興

グリーンツーリズムの学校受け入れ実績を生かした地方と都市の新たな関係性づくり

タンチョウの定着と、それを可能とする環境の整備・生態系の保全

同じ**千歳川遊水地群**を有する５市町との流域連携を進め、ワイズユースの観点から環境保全・観光振興を先導

野鳥保護と農業の対立的構図を解きほぐし、共生の道を探る対話や環境学習を推進

タンチョウや**渡り鳥**をテーマとした国内・世界各地との交流

タンチョウ写真提供：環境省・一般社団法人タンチョウ研究所　背景イラスト作成：北海道開発局札幌開発建設部

昨年度の取組の概要（仮説と実践、気づき）

当初予定していた取組

- 舞鶴遊水地の観光拠点充実化
- 普及啓発のための行事開催・参加
- 環境学習（タンチョウ子ども交流ツアー等）
- タンチョウをシンボルにした環境に配慮した農業の取組と農産物のブランド化の検討
- 地域づくり専門部会における先進地視察

実践の中での気づき

- 地域の巻き込みが重要
- 小学校跡地活用

  ⇒地区住民の巻き込み、要望の吸い上げ
- 農業の農法づくりとブランド化

  ⇒農家が何を求めているのか、不安に思っていることは何か

実際に行った取組

- 旧長沼舞鶴小学校活用検討に着手、「鳥の駅マオイトー」存続利用に向けた調整
- 「タンチョウと"わたし"活動報告会」の開催等、町内外への取り組みの発信
- 環境に配慮した農業の取組と農産物のブランド化について関係機関との意見交換等
- 地域づくり専門部会における先進地視察

事業のタネ３つ

- 舞鶴遊水地及び周辺施設の利活用
  - 環境学習の場、観光の場としての利活用
  - 「鳥の駅マオイトー」の設置継続
  - 旧長沼舞鶴小学校の活用
  - 企業・大学・研究機関等へアプローチ
- 取組のPR・普及啓発
  - 町内における取組の定着
  - 町外に向けた情報発信
  - 観光客に向けた観察マナー啓発
- タンチョウをシンボルにした環境に配慮した農業の取組と農産物のブランド化
  - 環境に配慮した農法を検討
  - ブランド農産物の販路開拓

昨年度の取組を踏まえた課題とその対応

環境整備についての課題

- 地域のビジョン（マンダラ）について、集約した意見の精査に十分な時間を確保できなかった。
- ステークホルダーの巻き込みについて、呼びかけの対象選定が困難だった。取り組みを進めやすい人数（団体数）がわからない。既存の検討協議会や専門部会との整理のつけ方にも苦慮した。
- 成果指標については、町の他の計画との整合・調整が困難だった。特に、長期的な目標をどこまで設定するか、成果状況を図るための体制、環境関係の上位計画など。

環境ローカルビジネスの事業化に向けた課題

- 環境にやさしい農業については、関係機関との意見交換を重ねたが、ブランドとしてさらに突出した栽培方法を取り入れることは、現状では地域全体の合意形成が得られず、難しい。
- 千歳川遊水地群を有する６市町の連絡会議が昨年11月に開催され、長沼町の取り組みが共有されたが、他のいずれの市町も今後の遊水地活用方針については検討初期の段階であり、かつ農業が基幹産業の1つであることから、遊水地をタンチョウや渡り鳥が生息・飛来しやすい環境に整備する検討は進んでいない。

課題を打破するための今年度の取組

- 今年度は舞鶴遊水地で、長沼町を含む空知管内では100年以上ぶりとなるタンチョウの繁殖が確認された。また町内においては、新型コロナウイルス感染症の影響がありつつ、「令和元年度に廃校となった旧長沼舞鶴小学校の跡地活用の検討」や「次期総合振興計画（令和3年度～）の策定に向けた審議」が行われる。
- こうしたことから本事業では、今年度は「環境ローカルビジネスの基盤づくり」を優先すべきと考え、まず、**拠点（旧長沼舞鶴小跡地及び鳥の駅マオイトー）**と**政策・制度（総合振興計画）**、**観光商品造成に向けた環境学習アクティビティ開発**等に取り組む。

今年度の新たなチャレンジと到達目標

新たにチャレンジしたいこととその具体的な取組

- **田園と自然の共生・地域交流の拠点の整備**：「旧長沼舞鶴小学校跡地」及び「鳥の駅マオイトー」を一体的に活用する構想をつくる。拠点機能として「自然観察や農業体験の提供等を行う、田園と自然の共生（という長沼町スタイル）の発信拠点」「舞鶴地区の賑わいづくりと町内の滞留を促進する、地方と都市の新たな交流拠点」「千歳川流域におけるビジターセンター」といった機能が期待され、関係者（舞鶴地区住民、タンチョウ保護関係者、町内事業者、流域自治体等）との対話とともに、初期改修等の資金調達に向けた企業へのアプローチ、運用方策の検討に向けた市外類似施設の視察等を行う。
- **「総合振興計画」への織り込み、地域ブランドにつなげる町民や行政職員の学習対話**：次期総合振興計画（令和3年度～）に「タンチョウをシンボルとした自然との共生」が織り込まれることを想定し、他部局（産業振興課商工観光係、農政係等）との情報共有や、環境・経済・社会の統合的発展に向けた学習会を行う。また、住民との対話、情報共有を継続して行う。
- 千歳川遊水地群の流域連携による、**持続可能な観光を目指したツアー商品や環境学習アクティビティ開発**に取り組む。

今年度の到達目標

舞鶴遊水地（鳥の駅マオイトー）及び旧長沼舞鶴小学校の利活用構想を地域住民と一緒に作成！

＋

利活用構想を支援or一緒に実現してくれる企業にPR活動！

次期総合振興計画へタンチョウも住めるまちづくり推進を位置付ける！

長沼町観光協会と連携したツアー商品の開発！

今年度の年間スケジュール

活動拠点整備　次期総合振興計画　観光商品づくり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆協定締結（活動予算執行開始	◆キックオフミーティング		現地意見交換会			◆中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出◆		◆成果報告会	
話を聞きに行く！				◆事例視察	◆観光協会と打合せ							
地域のコンセプトを描く！	◆第1回住民会議		◆第2回住民会議				◆利活用構想作成					
事業のストーリーを語る！								◆企業PR活動 ◆遊水地群NW勉強会				
地域の目標を立てる！	◆ R1.12～	次期総合振興計画（案）作成（審議会適宜開催・パブコメ等）									◆	◆ 次期総合振興計画策定

新規に取り組む団体へ一言！

- 地域のデザインに関わることなので、本事業で想定するステークホルダーの範囲を早期にイメージづくりすることが大切

こんなことを助けて欲しい！

- 地域住民との合意形成の進め方
- 企業への情報発信、意見交換の場設定
- PPP・PFI事業導入可能性の助言、活用事例等の情報提供（あれば）